

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 1 月 26 日作成)

小委員会名	伝熱小委員会		主 査 名：永田 明寛 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)		委員長名：羽山 広文 主 査 名：尾崎 明仁
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築の伝熱問題に関わる研究開発・性能検証・評価を幅広く取り上げる。 ・ 窓・壁など伝熱の基本問題，これらを総合したファサードエンジニアリングの問題，建築と都市とのインターフェースの問題，建築と設備とを一体に捉えたエネルギー・資源の有効活用などに関する問題を取り上げる。 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：永田明寛 (首都大学東京) 幹事：菊田弘輝 (北海道大学)， 中山哲士 (岡山理科大学) 委員：石野久彌 (首都大学東京)， 一ノ瀬雅之 (首都大学東京)， 奥山博康 (神奈川大学)， 木下泰斗 (日本板硝子)， 郡公子 (宇都宮大学)， 宿谷昌則 (東京都市大学)， 田中英紀 (名古屋大学)， 萩原伸治 (建材試験センター)， 三坂育正 (日本工業大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 建材熱性能 WG：部位や建材レベルでの熱性能・エネルギー性能・カーボンニュートラル性能の評価方法の構築に向けて討議する。 2) 熱性能同定 WG：住宅等で実態の熱損失係数等を現場測定する方法についてシステム同定理論的観点から再考する。 3) 熱環境設計 WG：熱環境に関連する建築・設備システムの設計法を対象とし，実測調査，BEMS データ解析等の結果に対し，委員間で議論を行い，情報を共有する。 4) 建築・都市熱環境：都市のヒートアイランド現象の影響に関して，建築の伝熱工学研究の立場から，都市熱環境との連続性も含めた相互影響に関する議論を行う。 		
2015 年度予算	165,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s13/index.html	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	4WG および熱環境シミュレーション小委員会との合同委員会を開催し，幅広い情報交換と討議を行った。
委員会活動の問題点 ・課題	委員の出席率が低い。

2015 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>4WG および熱環境シミュレーション小委員会との合同委員会を 3 回開催 (4 回目を 2016/2/29 に開催予定) し、以下の建築・都市に関する技術や評価法の検討を行った。また、来年度の熱シンポジウムの企画について検討を行った。</p> <p>【2015/7/11】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) カーテンウォールの熱貫流率計算法に関する検討 2) 伝統民家の室内温熱環境改善のための 断熱改修と暖房方式に関する研究 3) 植物生産施設の熱環境シミュレーション 4) 太陽光発電パネルの熱収支特性の評価に関する研究 5) 大阪市立大学都市学科のプログラミング科目 <p>【2015/10/24】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6) 住宅用樹脂製窓の超高断熱化に関する研究 7) シンプルモデルによる熱負荷計算のベンチマーク結果 8) 都市型環境建築「ヤンマー本社ビル」における環境性能検証 9) 近赤外レーザースキヤニングと濾紙蒸発法による建物外表面の対流熱伝達率分布の計量化 10) 空気循環式全館空調システム住宅における太陽熱利用に関する研究 <p>【2015/12/23】</p> <ol style="list-style-type: none"> 11) 北米調査出張報告 グリーン建材・設備製品に関する国際標準化・普及基盤構築事業 12) 熱容量評価指標の構築に向けた検討 13) 親水性不織布による暑熱環境緩和に関する研究 14) 気象要素に基づく近未来冷暖房負荷予測 15) GIS データを利用した寒冷地住宅の暖房負荷解析 			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。